

動物性水産未利用資源を用いた速効性有機肥料の開発

1 中核機関・研究総括者

(独) 農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センター
古賀 伸久

2 研究期間

2006～2008 年度（3 年間）

3 研究目的

北海道ではホタテガイ加工残さなど水産廃棄物が大量に発生し、その処理に多額の費用が投じられている。また、有機栽培を実践する農家においては速効性有機肥料の開発が望まれている。

これらの問題を解決するため、水産廃棄物を原料とする低コスト速効性有機肥料製造技術を開発する。

4 研究内容及び実施体制

- ① 水産未利用資源の液化分解技術の開発（(株) マリンケミカル研究所、(独) 函館工業高等専門学校）

水産未利用資源の低コスト無臭液化技術および微生物分解技術を開発する。

- ② 肥料の特性と作物に対する施用効果の評価（(独) 北海道農業研究センター、北海道立道南農業試験場）

有機質肥料の特性、安全性、作物の収量、品質への効果を検討する。

- ③ 流通に適した肥料形態の設定とコスト分析（北海三共（株））

販売、流通に適した有機質肥料の形態、コスト分析により適正な販売価格を設定する。

NPO 法人グリーンテクノバンクが有する情報収集、企画立案機能を活用し、コーディネート機関として進行管理を行い、研究に取り組む。

5 目標とする成果

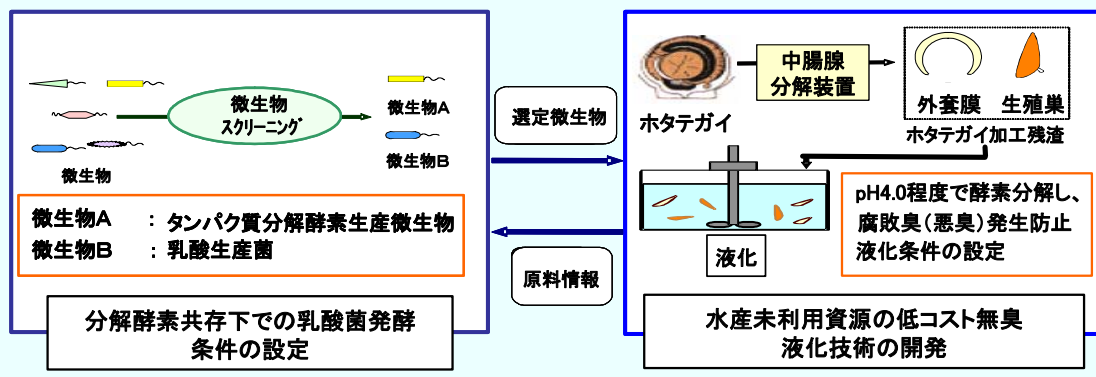
水産未利用資源を原料とした有機質肥料の低コスト製造技術が開発される。このことにより、有機栽培農家が強く要望する速効性有機質肥料が提供されると同時に、北海道における水産廃棄物処理問題の解決に貢献できる。

動物性水産未利用資源を用いた速効性有機肥料の開発

コーディネート機関

研究内容

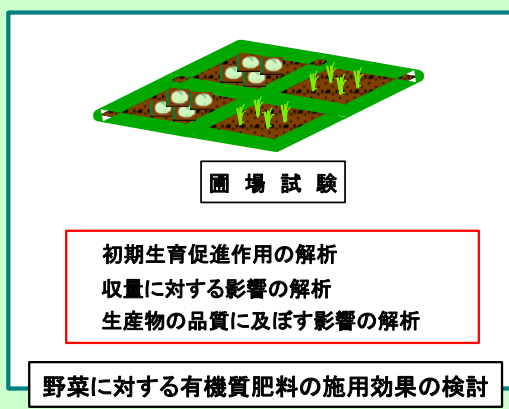
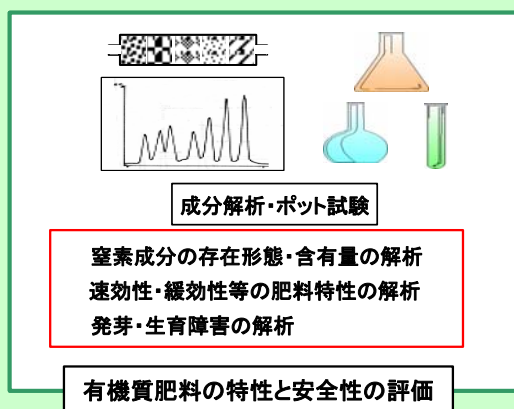
- ・研究課題の円滑な進行
- ・製品の販売促進



評価情報

試作肥料

評価情報



評価情報

肥料の成分濃度組成の設定
形態の設定
適応作物・作型の設定
製造から流通に至るコスト評価

製品開発



液肥



固形肥料

製品化

流通に適した肥料形態の設定とコスト分析

期待される成果

北海道で大量に発生する水産廃棄物を有効利用 →

廃棄物処理問題の解消、有機栽培農家が強く望む速効性有機肥料の提供